

北海道医療大学学生ボランティアネットワークが「第46回道新ボランティア奨励賞」を受賞しました。

道内で社会福祉活動に取り組む団体を表彰する「第46回道新ボランティア奨励賞」(北海道新聞社、北海道新聞社会福祉振興基金、北海道社会福祉協議会主催)の一般奨励賞8団体の一つに北海道医療大学学生ボランティアネットワークが選ばれました。

北海道医療大学学生ボランティアネットワークは、当別町社会福祉協議会などと連携し、イベントの企画・運営や高齢者向けの配食サービスを行っています。コロナ禍で活動制限がある中でも、独り暮らしの高齢者向けに「福祉冊子」を作成するなどしてストレッチ体操の方法や福祉サービスの紹介などを行っています。

4年生の小松瑞季前代表(22)は「受賞できてうれしく思っています。ボランティアの度に、地域で暮らす様々な世代の方々と活動を行い、連携を深めること

ができています。また、地域の方々やサークル部員同士での交流を深めながら、ボランティアを「楽しい」と感じることで、今まで経験したことのない活動を通して知らないうちに成長していく、そのような活動が、学生ボランティアネットワーク最大の魅力だと感じています。今後もこの良さを引き継いで、地域に貢献しながら楽しく活動してもらいたい。」と受賞の喜びと今後の活動にエールを送っていました。



第8回日本臨床作業療法学会学術大会 学生企画の部で最優秀賞を受賞しました。

5月15日(日)～29日(日)、第8回日本臨床作業療法学会学術大会学生企画の部でリハビリテーション科学部作業療法学科3年生の寺井文哉さんと宮崎大さんが最優秀賞を受賞しました。寺井さんと宮崎さんは「学生が叫ぶ!作業療法の魅力」というテーマに沿ってプレゼン発表、また、作業療法のオーダーメイドという部分に着目をして、オーダーメイド製品と作業療法の対比から作業療法の魅力や今後の課題を発表しました。

受賞した2人からは「今回の発表を通じて作業療法とはなにかを深く考え、その魅力や素晴らしさを再認識することができました。また他校の学生の素晴らしい発表から良い刺激を受けました。これからの学習や実習などから知識や技術を習得するとともに学生時代に思い描いた作業療法を大切にして大学生活を送っていきたくです。このような素晴らしい賞をいただき大変光栄に思います」とのコメントが寄せられました。

留学生に食料等の支援物資を配布しました。

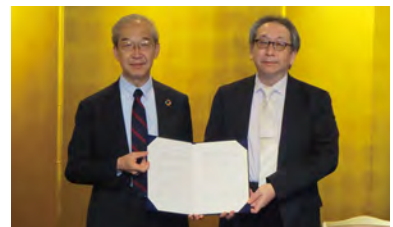
「ほっかいどう若者応援プロジェクト」から、札幌圏大学国際交流フォーラムを通じ、留学生の暮らしの応援を趣旨とした、食料・日用品の支援物資(20セット)が本学に寄贈され、6月2日(木)・3日(金)に希望した留学生に配布しました。支援品を受け取った留学生の中には、入国したばかりの学生もあり、「とても助かる」と大変喜んでいました。



近畿大学薬学部との包括連携協定調印式が実施されました。

7月1日(金)、京王プラザホテル札幌にて、「近畿大学薬学部と北海道医療大学薬学部との包括連携協定調印式」が執り行われました。調印式では、はじめに近畿大学の岩城正宏薬学部長ならびに本学の小林道也薬学部長が、それぞれ挨拶と今後の抱負等について述べ、その後調印を行いました。

本協定は、両校の持つ優れた教育、研究、地域社会との連携等の幅広い分野で相互に協力し、地域社会に貢献する人材の育成に寄与することを目的に締結され、この調印によって両大学による様々な取り組みに向けたスタートが切られました。



EDITOR'S NOTE

いつの間にか当別にも秋の冷たい空気が漂うようになりました。早いもので2022年もあと数カ月で終わります。2020年から新型コロナウイルスでさまざまな対応を迫られ、そして「ウイズコロナ」で私たちの生活も元に戻る部分もあればまだ完全に以前とは同じにはなれない状況も続いています。学生生活でみるとマスクを外せない状況で人の顔を覚えるのに一苦労すること(教員や大学の職員の皆様も含めて)、思うような教育活動ができないこと(実習内容などが学内実習になるなど)、座席が決まっていることなど、コロナ以前のノーマスク、どこでもだれとでも好きなときに会話をして食事をしてという時間がないまま卒業してしまいそうなことにちょっと気分が滅入りそうな学生さんがいるのではないかと気になっています。ちょうど北海道医療大学が50周年を迎える時に卒業する世代がコロナ禍で入学し卒業する世代です。

私たちはこの数年パンデミックで不自由さを感じてきました。この不自由の中に置かれた状況でも人間は考え、創造し新しいものにチャレンジしてきました。その意味では北海道医療大学でこのコロナ禍を過ごした学生さんたちは医療従事者がどのような責任感をもって世界的災害に向き合うかをその道の先輩たちから学べたまたとない機会だったのではないかと思います。是非この有事に医療系の大学に在学していることをポジティブに捉え、さまざまな活動をしている先生たちからコロナ禍での医療従事者の心構えを学んでいただきたく思います。(K.O記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.179

STAFF ● 遠藤 泰 浜上 尚也 志茂 剛 飯嶋 雅弘
内ヶ島 伸也 奥田 かつり 今井 常晶
齊藤 恵一 長谷川 純子 児玉 志志 田村 至
近藤 啓 高橋 祐輔 山形 摩紗 三浦 清志
三川 清輝 近田 卓哉

発行日 ● 2022年10月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
TEL:0133-22-2113
http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしています。
E-mail:nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp



■北海道医療大学の教育理念
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを北海道医療大学の教育理念とする。